

学習指導要領		都立井草高校 学カスタンダード
<p>(1) 世界史の扉</p> <p>自然環境と人類のかかわり、日本の歴史と世界の歴史のつながり、日常生活にみる世界の歴史にかかわる適切な主題を設定し考察する活動を通して、地理と歴史への関心を高め、世界史学習の意義に気付かせる。</p> <p>ア 自然環境と人類のかかわり 自然環境と人類のかかわりについて、生業や暮らし、交通手段、資源、災害などから適切な歴史的事例を取り上げて考察させ、世界史学習における地理的視点の重要性に気付かせる。</p> <p>イ 日本の歴史と世界の歴史のつながり 日本と世界の諸地域の接触・交流について、人、もの、技術、文化、宗教、生活などから適切な歴史的事例を取り上げて考察させ、日本の歴史と世界の歴史のつながりに気付かせる。</p> <p>ウ 日常生活にみる世界の歴史 日常生活にみる世界の歴史について、衣食住、家族、余暇、スポーツなどから適切な事例を取り上げて、その変遷を考察させ、日常生活からも世界の歴史がとらえられることに気付かせる。</p> <p>人類は各地の自然環境に適応しながら農耕や牧畜を基礎とする諸文明を築き上げ、やがてそれらを基により大きな地域世界を形成したことを把握させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アフリカ大陸で発生し、世界各地へわたった人類が、なぜ現在では乾燥地域となっている大河川の流域に古代文明を成立させたのか、気候変動の歴史と人類の生活や活動とのかかわりについて理解する。その際、1学年で学習した地理の知識を踏まえて歴史を大観する。 ・年表や地図を用いて、世界の歴史と日本の歴史の変遷とかかわりを理解し、説明できる。 ・現代日本で食べられている動植物がいつごろ、どこで飼育・栽培されるようになったものか、稲、ブタ、小麦、トウモロコシ、ジャガイモなどを具体例として理解する。 	
<p>(2) 諸地域の形成</p> <p>ア 西アジア世界・地中海世界 西アジアと地中海一帯の地理的特質、オリエント文明、イラン人の活動、ギリシア・ローマ文明に触れ、西アジア世界と地中海世界の形成過程を把握させる。</p> <p>イ 南アジア世界・東南アジア世界 南アジアと東南アジアの地理的特質、インダス文明、アーリア人の進入以後の南アジアの文化、社会、国家の発展、東南アジアの国家形成に触れ、</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエント文明と一神教、契約と法などを通して西アジアの文明にみられる特質を理解し、説明できる。 ・イラン文明のオリエント文明に与えた影響を理解し、説明できる。 ・古代ギリシアやローマの遺産、キリスト教などを通してヨーロッパに形成された文明にみられる特質を理解し、説明できる。中でも文化を通して世界との繋がりを大観する。 	

学習指導要領		都立井草高校 学カスタンダード
<p>南アジア世界と東南アジア世界の形成過程を把握させる。</p> <p>ウ 東アジア世界・内陸アジア世界 東アジアと内陸アジアの地理的特質、中華文明の起源と秦・漢帝国、遊牧国家の動向、唐帝国と東アジア諸民族の活動に触れ、日本を含む東アジア世界と内陸アジア世界の形成過程を把握させる。</p> <p>エ 時間軸からみる諸地域世界 主題を設定し、それに関連する事項を年代順に並べたり、因果関係で結び付けたり、地域世界ごとに比較したりするなどの活動を通して、世界史を時間的なつながりに着目して整理し、表現する技能を習得させる。</p> <p>(3) ユーラシアの海域及び内陸のネットワークを背景に、諸地域世界の交流が一段と活発化し、新たな地域世界の形成や再編を促したことを把握させる。</p> <p>ア イスラーム世界の形成と拡大 アラブ人とイスラーム帝国の発展、トルコ系民族の活動、アフリカ・南アジアのイスラーム化に触れ、イスラーム世界の形成と拡大の過程を把握させる。</p> <p>イ ヨーロッパ世界の形成と展開 ビザンツ帝国と東ヨーロッパの動向、西ヨーロッパの封建社会の成立と変動に触れ、キリスト教とヨーロッパ世界の形成と展開の過程を把握させる。</p> <p>ウ 内陸アジアの動向と諸地域世界 内陸アジア諸民族と宋の抗争、モンゴル帝国の興亡とユーラシアの諸地域世界や日本の変動に触れ、内陸アジア諸民族が諸地域世界の交流と再編に果たした役割を把握させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・仏教やヒンドゥー教などを通して南アジア・東南アジアの文明にみられる特質を理解し、説明できる。また、日本への伝来について触れる。 ・漢字と儒教、冊封体制などを通して日本を含む東アジアの文明にみられる特質を理解し、説明できる。 ・遊牧民族との交流、抗争の中で東アジア文明が展開したことを理解し、説明できる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ユダヤ教、キリスト教の影響を受けて成立したイスラーム教世界が、アラブ人の商業活動を通じたネットワークの中で拡大したことを理解し、説明できる。 ・イスラーム世界の拡大の影響下、ローマ帝国で成立したキリスト教世界が、西ヨーロッパ世界と東ヨーロッパ世界に分かれていったことを理解し、説明できる。 <ul style="list-style-type: none"> ・周辺諸民族の活発化により、宋代に儒教の読み直しが行われて宋学が成立するとともに、商業をはじめとして産業が活発化することを理解し、説明できる。 ・内陸アジアから興ったモンゴル帝国が、東アジア、西アジア、ヨーロッパ各世界を結びつけて発展し 	

学習指導要領		都立井草高校 学カスタンダード
<p>エ 空間軸からみる諸地域世界 同時代性に着目して主題を設定し、諸地域世界の接触や交流などを地図上に表したり、世紀ごとに比較したりするなどの活動を通して、世界史を空間的なつながりに着目して整理し、表現する技能を習得させる。</p> <p>(4) 諸地域の結合と変容 アジアの繁栄とヨーロッパの拡大を背景に、諸地域世界の結合が一層進展したこととともに、主権国家体制を整え工業化を達成したヨーロッパの進出により、世界の構造化が進み、社会の変容が促されたことを理解させる。</p> <p>ア アジア諸地域の繁栄と日本 西アジア・南アジアのイスラーム諸帝国や東南アジア海域の動向、明・清帝国と日本や朝鮮などとの関係を扱い、16世紀から18世紀までのアジア諸地域の特質とそこでの日本の位置付けを理解させる。</p> <p>イ ヨーロッパの拡大と大西洋世界 ルネサンス、宗教改革、主権国家体制の成立、世界各地への進出と大西洋世界の形成を扱い、16世紀から18世紀までのヨーロッパ世界の特質とアメリカ・アフリカとの関係を理解させる。</p> <p>ウ 産業社会と国民国家の形成 産業革命、フランス革命、アメリカ諸国の独立など、18世紀後半から19世紀までのヨーロッパ・アメリカの経済的、政治的変革を扱い、産業社会と国民国家の形成を理解させる。</p> <p>エ 世界市場の形成と日本 世界市場の形成、ヨーロッパ諸国のアジア進出、オスマン、ムガル、清帝国及び日本などアジア諸国の動揺と改革を扱い、19世紀のアジアの特質とそこでの日本の位置付けを理解させる。</p> <p>オ 資料からよみとく歴史の世界</p>	<p>たことを理解し、説明できる。</p> <p>・オスマン帝国、サファヴィー朝、ムガル朝と鼎立し、強勢を誇ったイスラーム3国のそれぞれの特徴を理解し、説明できる。明、清帝国の特徴を理解し、説明できる。</p> <p>・イタリア戦争以降のヨーロッパ主権国家体制の形成と平行して、ルネサンス、宗教改革が進んだことを理解し、説明できる。・中世の十字軍以降、ヨーロッパの外に向けられた西欧の膨張が、大航海時代を招来し、世界の新たな一体化をもたらしていくことを理解し、説明できる。</p> <p>・産業革命および市民革命が、現代世界の経済、政治体制のベースとなっていることを理解し、説明できる。</p> <p>・産業革命以降、新たな市場を求めてヨーロッパ諸国のアジア、アフリカへの進出が激しくなり、ヨーロッパ主導の国際秩序が成立していく過程を理解し、説明できる。</p>	

学習指導要領	都立井草高校 学カスタンダード
<p>主題を設定し、その時代の資料を選択して、資料の内容をまとめたり、その意図やねらいを推測したり、資料への疑問を提起したりするなどの活動を通して、資料を多面的・多角的に考察し、よみとく技能を習得させる。</p> <p>(5) 科学技術の発達や生産力の著しい発展を背景に、世界は地球規模で一体化し、二度の世界大戦や冷戦を経て相互依存を一層強めたことを理解させる。また、今日の人類が直面する課題を歴史的観点から考察させ、21世紀の世界について展望させる。</p> <p>ア 帝国主義と社会の変容 科学技術の発達、企業・国家の巨大化、国民統合の進展、帝国主義諸国の抗争とアジア・アフリカの対応、国際的な移民の増加などを理解させ、19世紀後期から20世紀初期までの世界の動向と社会の特質について考察させる。</p> <p>イ 二つの世界大戦と大衆社会の出現 総力戦としての二つの世界大戦、ロシア革命とソヴィエト連邦の成立、大衆社会の出現とファシズム、世界恐慌と資本主義の変容、アジア・アフリカの民族運動などを理解させ、20世紀前半の世界の動向と社会の特質について考察させる。</p> <p>ウ 米ソ冷戦と第三世界 米ソ両陣営による冷戦の展開、戦後の復興と経済発展、アジア・アフリカ諸国の独立とその後の課題、平和共存の模索などを理解させ、第二次世界大戦後から1960年代までの世界の動向について考察させる。</p> <p>エ グローバル化した世界と日本 市場経済のグローバル化とアジア経済の成長、冷戦の終結とソヴィエト連邦の解体、地域統合の進展、知識基盤社会への移行、地域紛争の頻発、環境や資源・エネルギーをめぐる問題などを理解させ、1970年代以降の世界と日本の動向及び社会の特質について考察させる。</p>	<p>・資本主義が発達して帝国主義段階となると、列強を中心として世界の再編が展開したことを理解し、説明できる。</p> <p>・帝国主義間の戦争として始まった第一次世界大戦以降、資本主義に対抗する社会主義思想の影響で世界が現実的な変容を受け始め、やがて、民主主義をも否定するファシズム勢力が台頭し、第二次世界大戦が起きたことを理解し、説明できる。</p> <p>・欧米の植民地となったアジア、アフリカ地域が、米ソ冷戦を基本的な対立構造とする世界で、独立を達成することを理解し、説明できる。・西欧や日本の復活、中ソ論争などで、世界の多極化が進行することを理解し、説明できる。</p> <p>・冷戦の終結後に展開した、世界のグローバル化及び局地的な紛争の多発を、政治や経済など多角的な側面から検討し、理解を深める。</p>

学習指導要領	都立井草高校 学カスタンダード
<p>オ 資料を活用して探究する地球世界の課題</p> <p>地球世界の課題に関する適切な主題を設定させ、歴史的観点から資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、資料を活用し表現する技能を習得させるとともに、これからの世界と日本の在り方や世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について展望させる。</p>	